

道路事業 再評価

一般国道47号 余目酒田道路

平成25年10月18日
国土交通省 東北地方整備局

1. 事業の目的と概要 (1)

再評価実施後3年経過

○事業目的

- ・新庄酒田道路の一部を構成し、最上・庄内地域間の交流・連携促進
- ・酒田市の最上川渡河部における渋滞緩和
- ・庄内町市街地部における交通安全の確保

○計画概要

起終点 : 自: 山形県東田川郡庄内町廻館
 至: 山形県酒田市東町

延長(開通済): 12.7km (- km)

幅員 : 22.0m~39.0m

道路規格 : 第1種第3級、第3種第1級

設計速度 : 自動車専用区間 80km/h
 一般道区間 60km/h

事業化 : 平成16年度

都市計画決定: 平成15年度

用地着手 : 平成18年度

工事着手 : 平成18年度

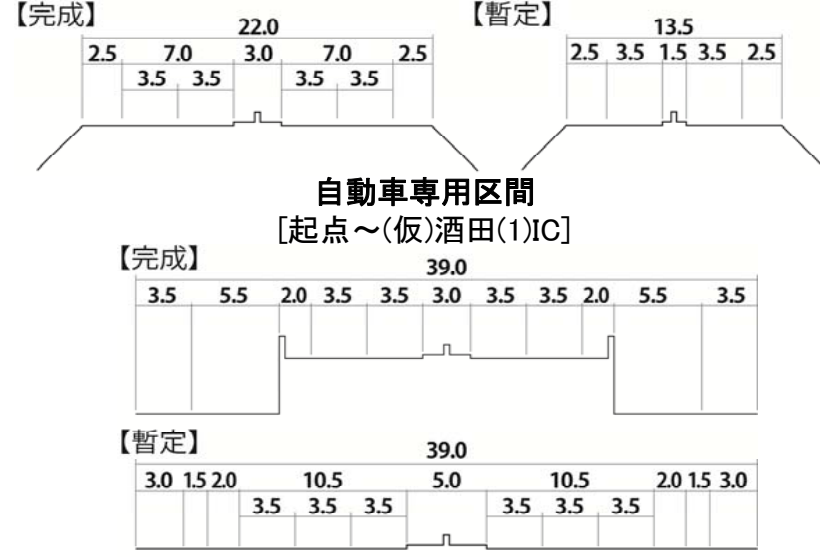
事業費・進捗率

	全体事業費 (うち用地費)	執行済み額 (うち用地費)	全体進捗率 (用地費)	H22再評価 (用地費)
完成	635億円 (110億円)	399億円 (84億円)	63% (76%)	581億円 (110億円)
暫定	563億円 (110億円)	399億円 (84億円)	71% (76%)	478億円 (110億円)

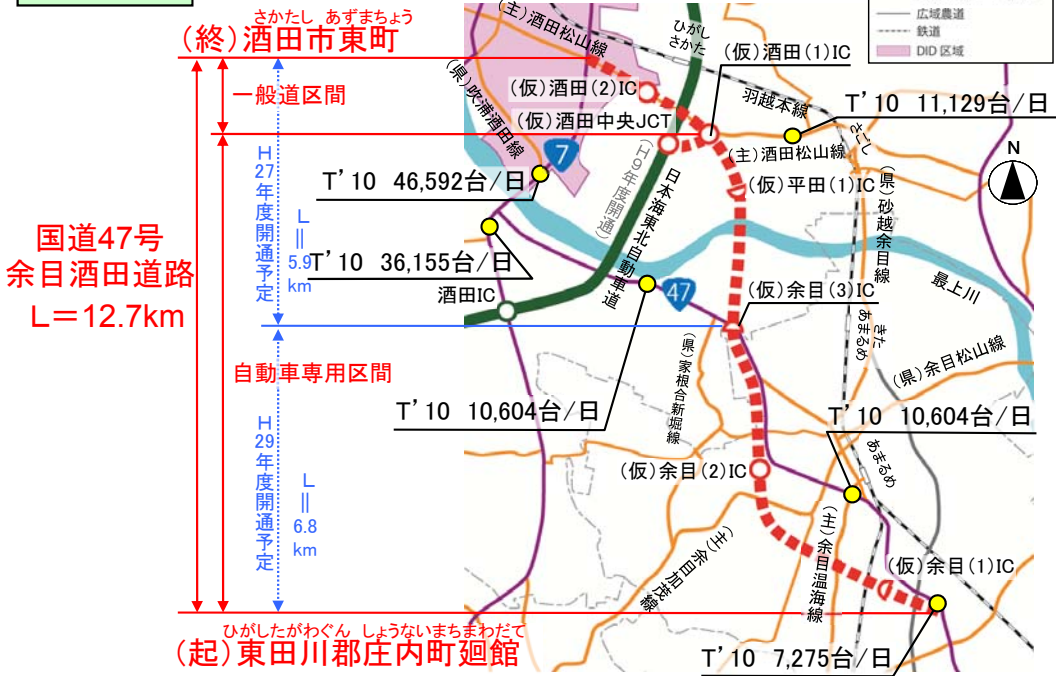
位置図



標準横断面図



平面図



1. 事業の目的と概要 (2)



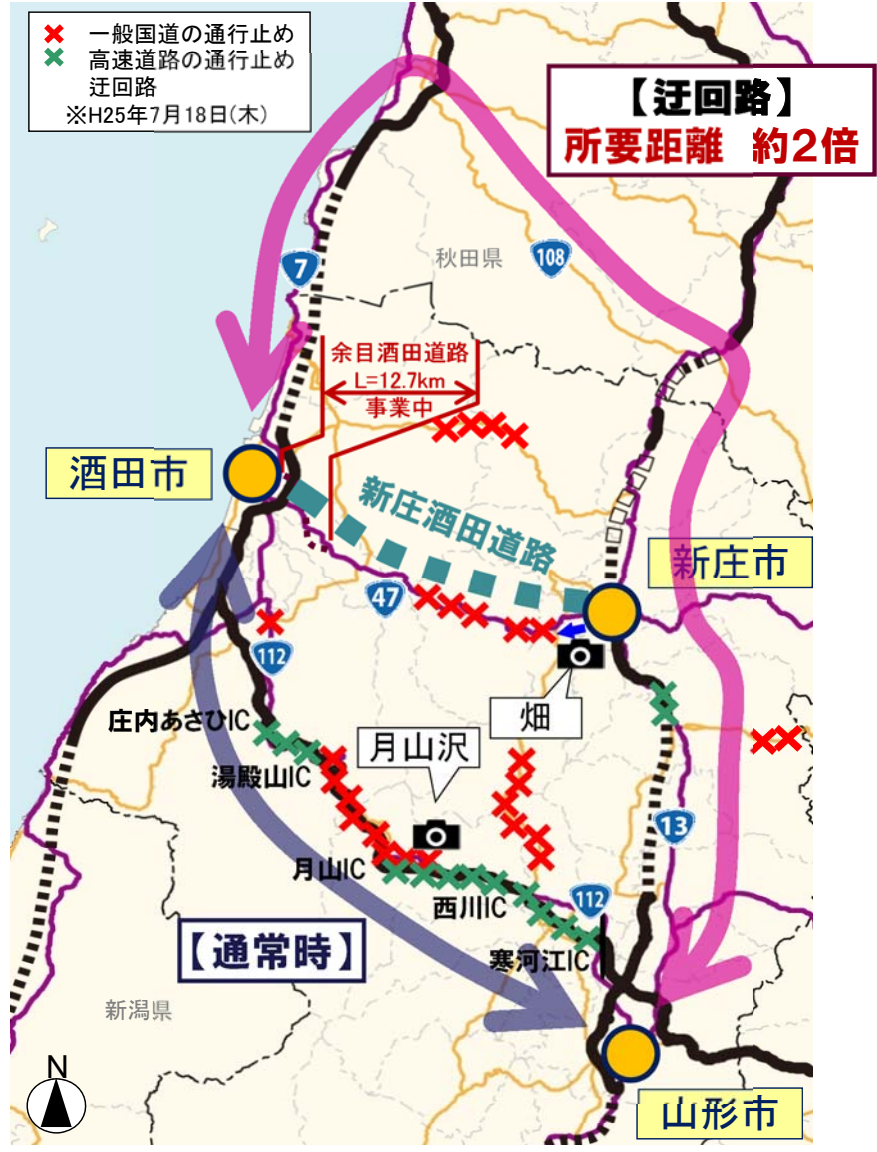
2. 事業の必要性に関する視点1 (事業をめぐる社会情勢の変化)

- ◆ 平成25年7月18日(木)の大雨に伴う国道112号の通行止め時に、並行する国道47号では交通量が最大300台/時以上増加するなど、一時、代替路として機能したが、程なく国道47号も通行止めとなった
- ◆ 県内の内陸部と庄内地域を結ぶ全ての幹線道路が寸断され、国道112号通行時の約2倍の距離を要する大幅迂回が発生

地域高規格道路の整備により、都市間経路の安全性向上に期待

○迂回損失(山形市-酒田市間)は約**1.1億円/日**と試算(国道47、112号利用交通(H22センサス)が国道108号を全台数経由した場合)

▼庄内地域周辺の通行止め箇所(平成25年7月大雨時)



庄内地方と結ぶ全ての幹線道路が寸断された時間 **【7時間15分】**



▲国道47号 新庄市畑地区の冠水 (H25年7月18日)



▲国道112号 西川町月山沢の土砂崩れ(H25年7月18日)

県内豪雨 被害相次ぐ

出典) H25.7.19山形新聞

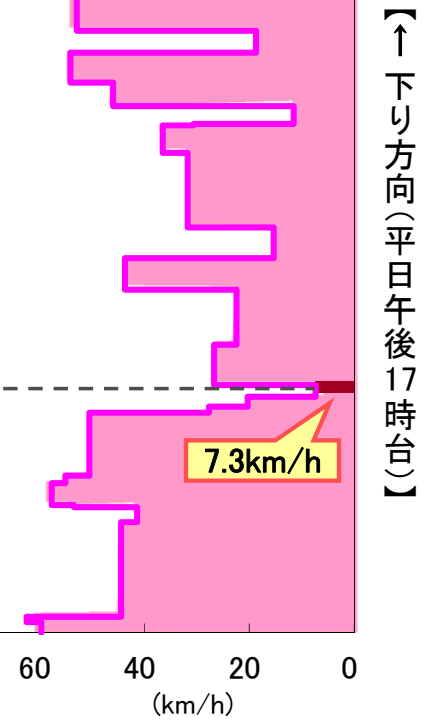
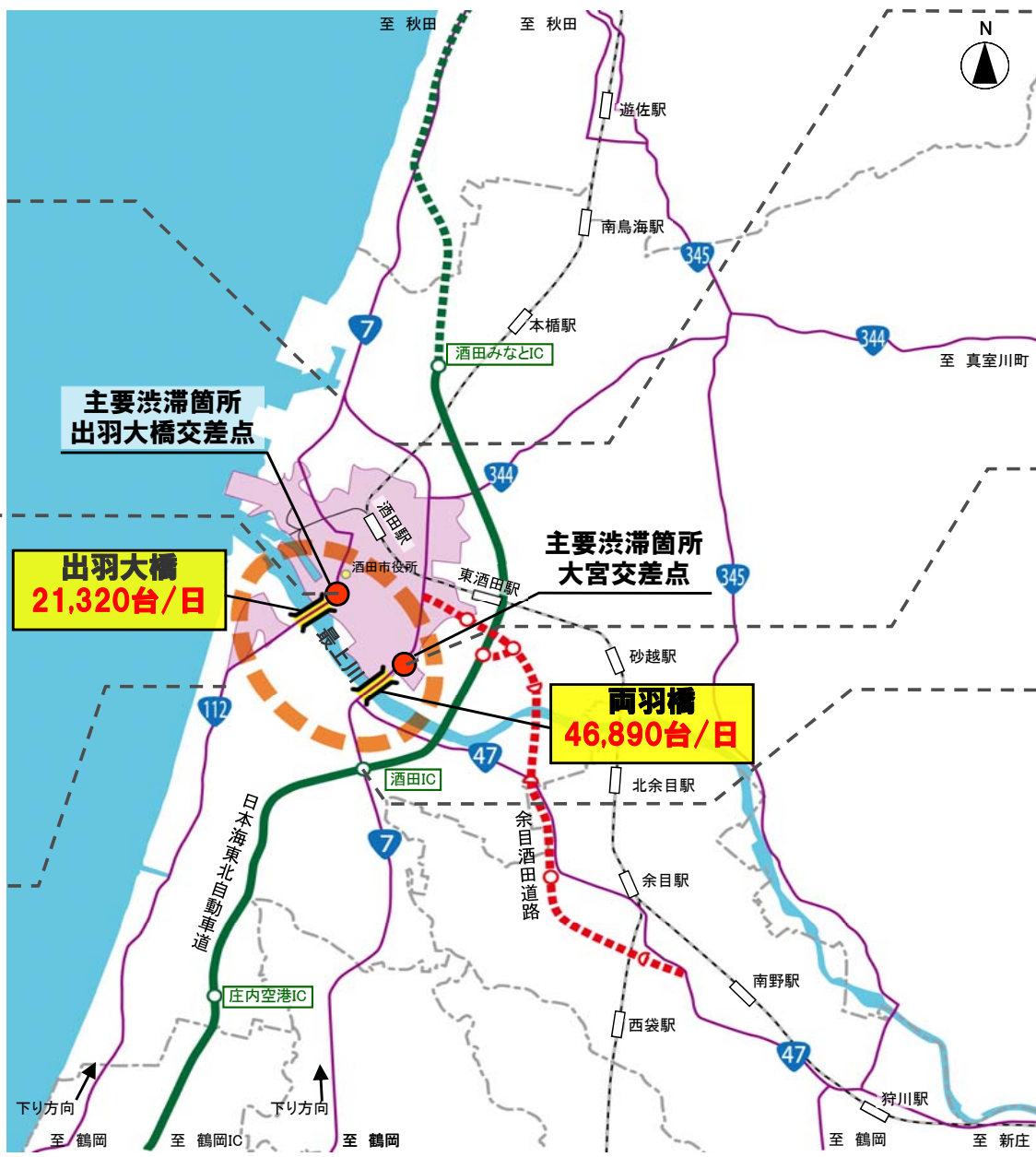
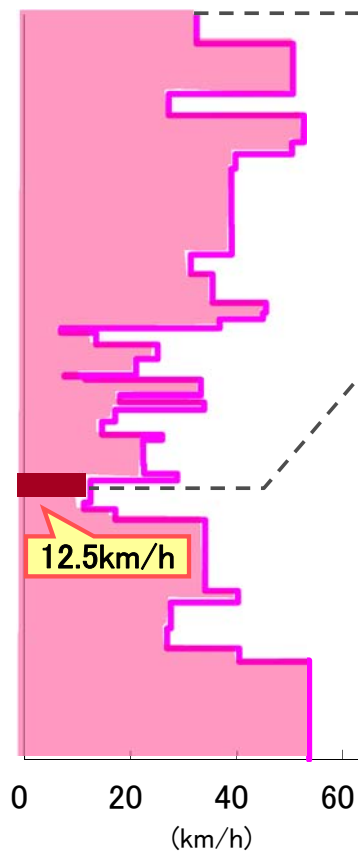
2. 事業の必要性に関する視点2（事業をめぐる社会情勢の変化）

◆酒田市街地周辺の最上川を渡河する交通のうち、9割以上を国道7号（両羽橋）、112号（出羽大橋）で分担しており、特に国道7号は約4万7千台の交通が集中し、朝夕を中心に渋滞が発生

道路の整備により交通転換が図られ混雑緩和が期待

▼国道112号 混雑時旅行速度

【↑下り方向（平日午後17時台）】



【↑下り方向（平日午後17時台）】

▲国道7号 混雑時旅行速度



▲国道7号、112号渡河部の交通量と平日夕ピーク時（平均）の旅行速度

資料） H22道路交通センサス、H24年10月民間プローブデータ

▲大宮交差点付近の混雑状況

（H25年5月29日）

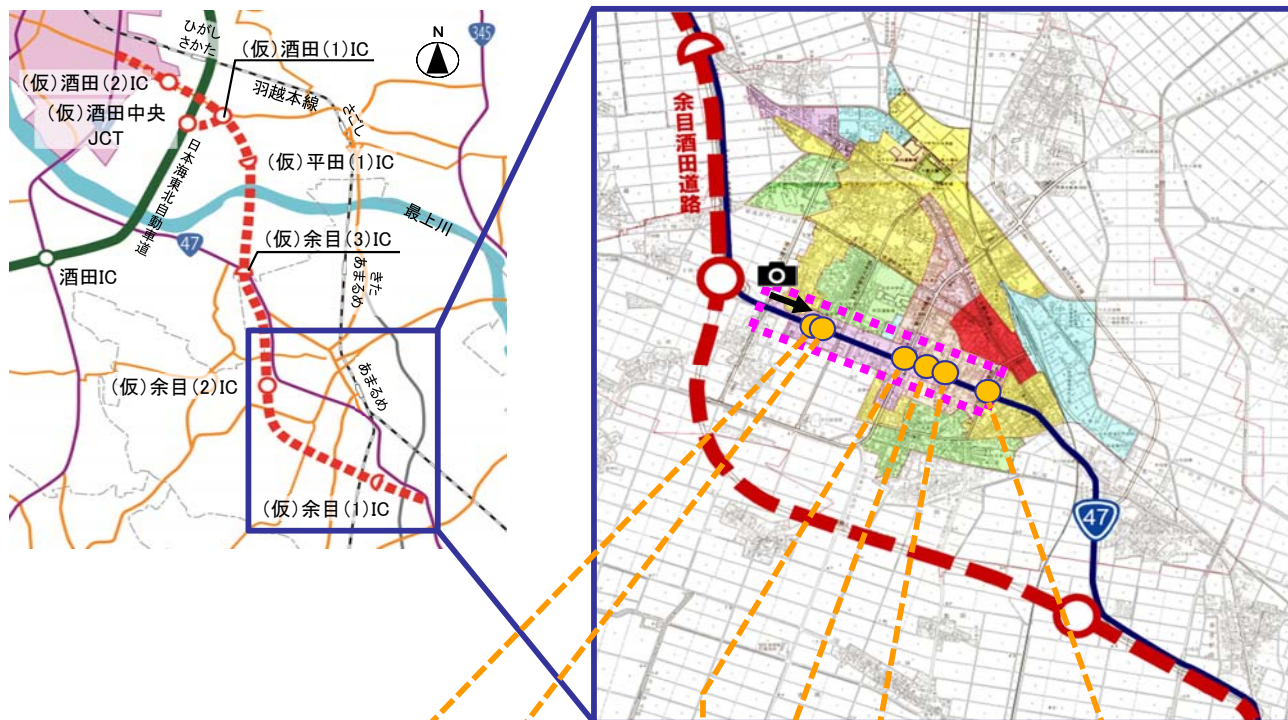
2. 事業の必要性に関する視点3 (事業をめぐる社会情勢の変化)

- ◆国道47号(余目地区)では、沿線に沿道店舗等が多く立地しており、追突や出会い頭等による事故の危険性が高い
- ◆特に市街地部では、死傷事故率が東北地方平均(77.8件/億台キロ)を上回る区間が6箇所存在

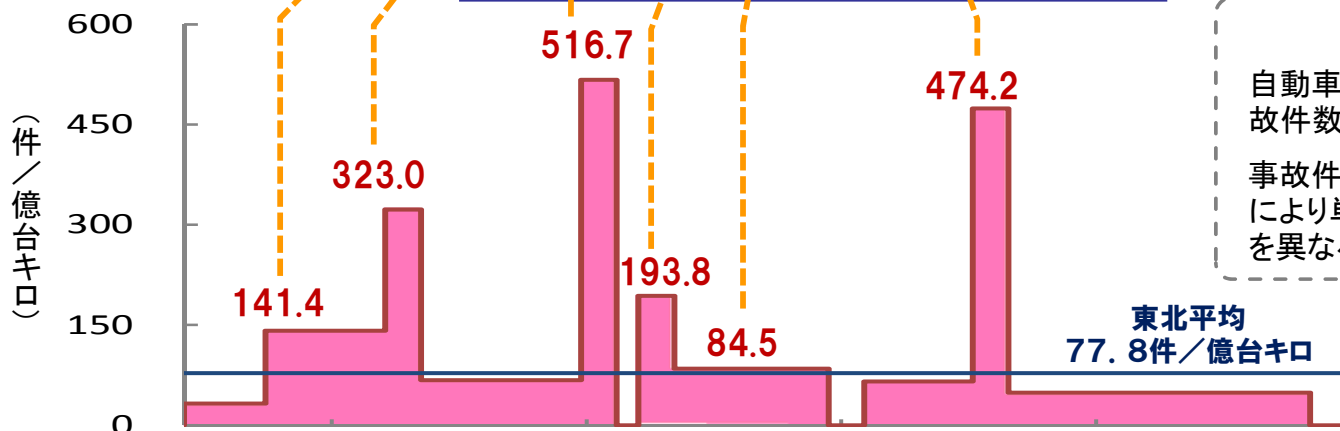
▼余目地区拡大図

交通経路の適正化により、事故件数の減少を期待

出典)余目都市計画図



▲沿道施設からの出入り交通で錯綜する
国道47号:庄内町市街地(H21年5月13日)



▲国道47号(余目地区)死傷事故率

【死傷事故率】

自動車1万台が1万kmを走行した場合に起こる死傷事故件数

事故件数での比較は、集計する延長や交通量の違いにより単純な比較ができないことから、事故の発生件数を異なる箇所でも比較できるようにした指標

東北平均
77.8件/億台キロ

東北管内の直轄国道平均値(H22)
〔直轄国道の市街地部(2車線)〕

2. 事業の必要性に関する視点4（事業をめぐる社会情勢の変化）

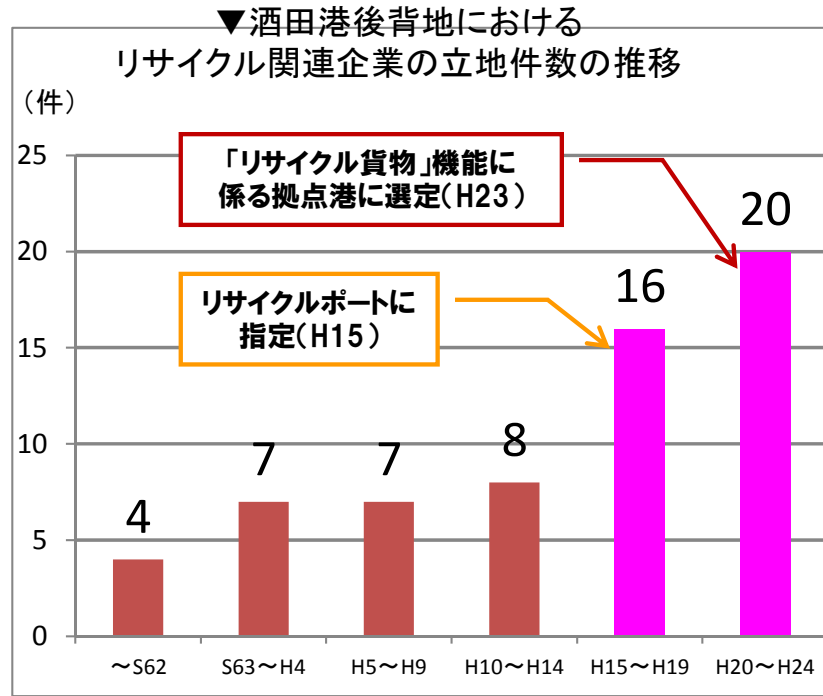
- ◆酒田港は平成15年にリサイクルポート指定、平成23年11月にリサイクル機能に係る日本海側拠点港に選定され、酒田港後背地におけるリサイクル関連企業の立地件数が年々増加
- ◆大手商社が酒田港を東北のリサイクル貨物集積地とする計画を発表するなど、今後もさらなる取扱量の増加が期待
- ◆内陸部からのリサイクル貨物の輸送では、国道47号の確実性や速達性などが課題

道路網の整備による酒田港のリサイクル拠点機能の集積・強化



▲リサイクル貨物の輸送ルート

出典)H22リサイクル企業アンケート結果



出典) 酒田市資料

▼リサイクル貨物の物流拠点化が期待される酒田港



出典) H24.9.8庄内日報

○リサイクル貨物の輸送では、国道47号は、確実性、速達性、走行安全性に問題がある。高規格道路の整備により、輸送時間が短縮されることで、集荷量の増加が期待できる。

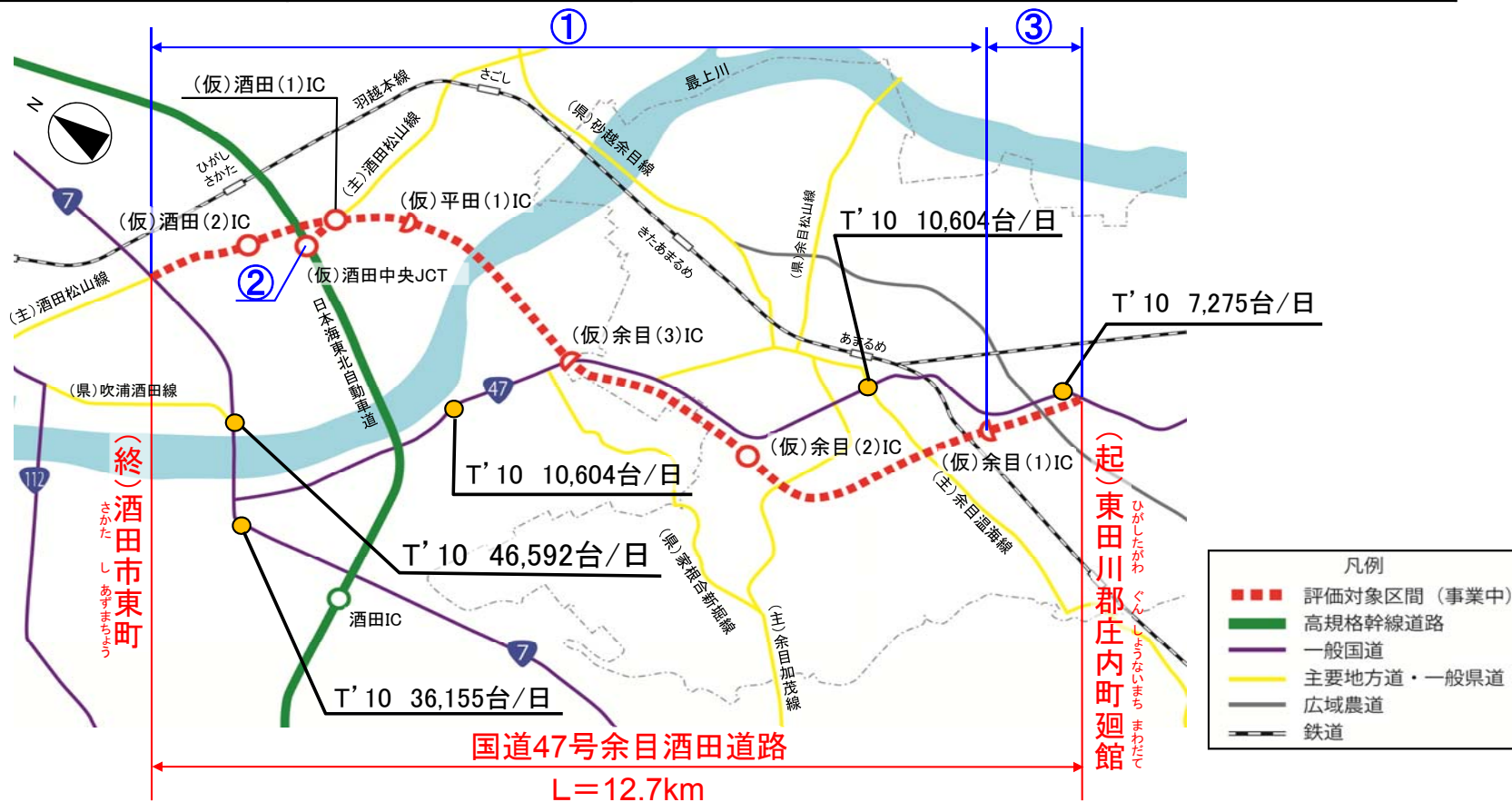
○近年、リサイクル関連企業の立地が一件／年以上みられ、道路網がさらに整備されれば、企業立地はさらに増加すると思う。

出典) リサイクル企業へのヒアリング結果(H24.10)

【余目酒田道路】 事業費増に係る概要説明

余目酒田道路の事業費増(全体事業費581億円→635億円) 54億円増

項 目		増工金額 (億円)	主な内容
工事費	盛土材料に係る増工	45	①盛土材調達先の変更
	有料道路設備に係る増工	36	②酒田中央JCT関連費用
	計画見直し(コスト縮減)	△27	③1工区の現道活用整備によるコスト縮減
合 計		54	



①盛土材調達先の変更 (+45億円)

■事業費増に至る経緯

- 事業化時 : 盛土材は購入土により対応する計画
- H22再評価 : 盛土材の単価上昇を踏まえ、市公園計画予定地を土取り場として活用する計画を策定 (増額を圧縮)
- H25年度 : 地元住民より自然環境保全の観点から公園計画に対し反対されたため市が計画を取り止め
公園予定地の土取り場活用は白紙
→このため、代替として赤川掘削土の流用を図り事業費増額を圧縮

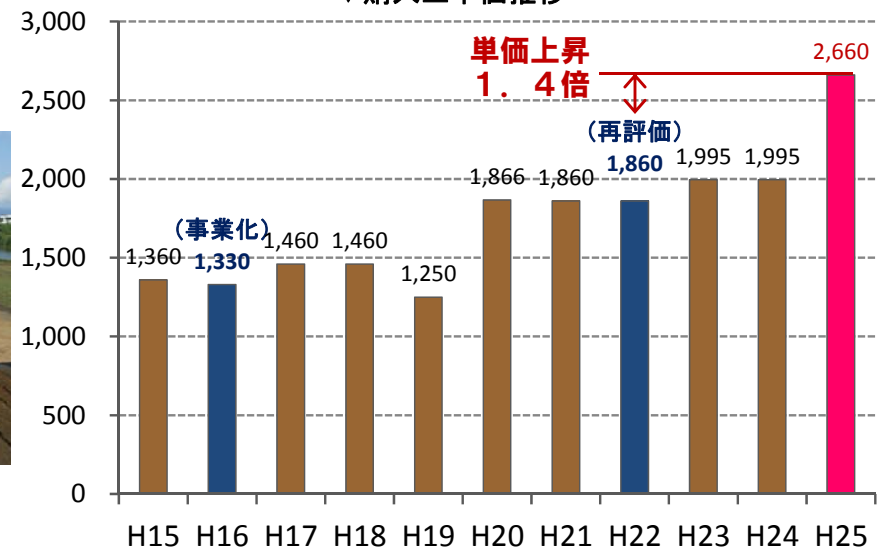
(増額内訳) H22再評価時 約 91億円
見直し計画 (現在) 約136億円 (+45億円)

▼余目酒田道路・酒田市公園整備事業位置図



	H22再評価	今回見直し
	土量(万m3)	土量(万m3)
購入土	200	240 (40万m3)
公園計画	80	-
赤川掘削	-	40 (40万m3)
土工費	約 91億円	約136億円

▼購入土単価推移



②酒田中央JCT関連費用 (+36億円)

■事業費増に至る経緯

- OH22再評価 高速無料化社会実験等を施策として取り組まれていたため、その後の料金体系が不透明
またNEXCOとの管理区域等協議が未了
- OH24年11月 NEXCOと基本協定を締結し、具体的な管理区域や料金徴収方法が決定され、料金所整備費が確定

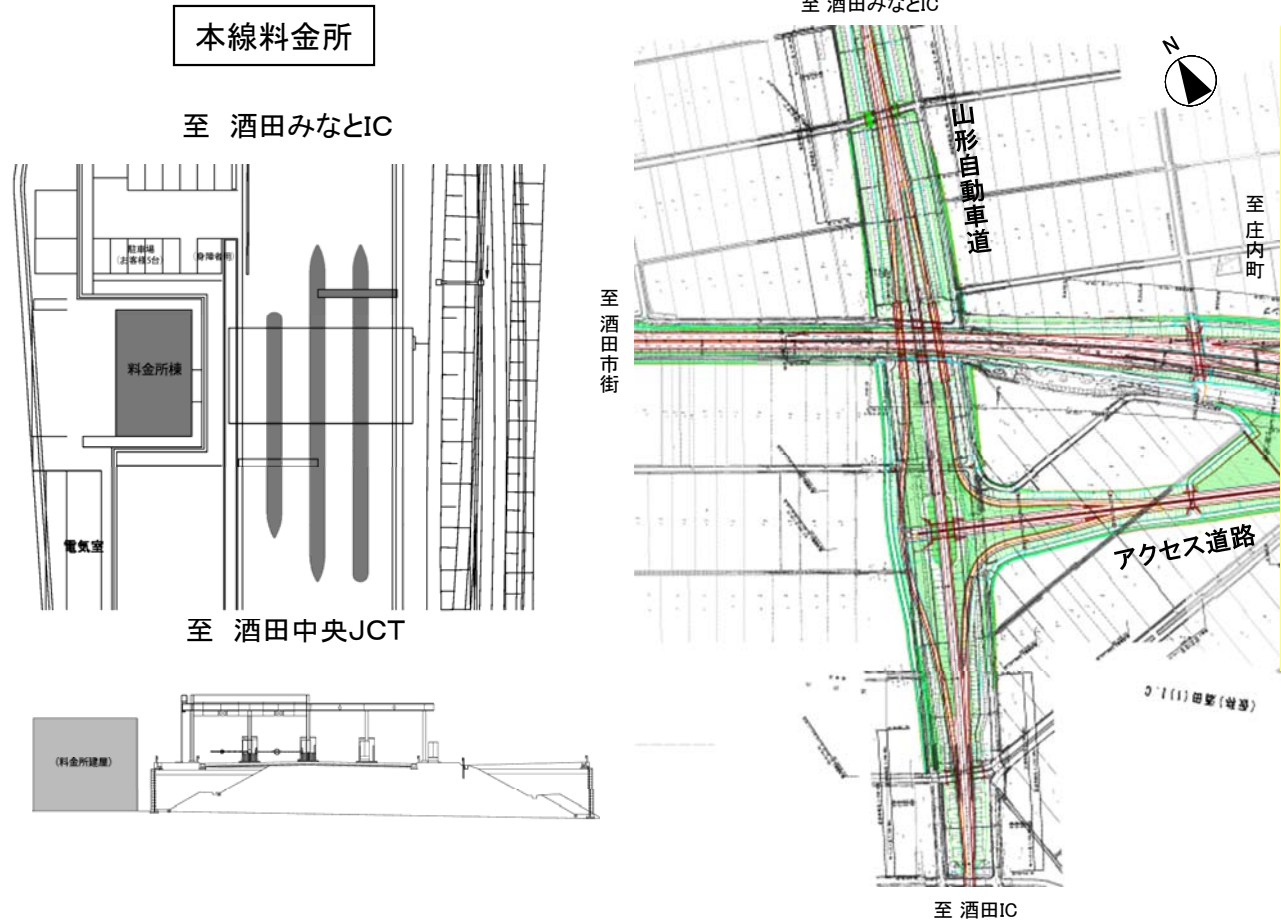
増額内訳

料金所	: 11億円
施設関係費	: 14億円 (照明、情報板、標識、ITV等観測機器、 通信ケーブル、システム改築等)
用地補償費等	: 11億円
計	36億円増加

▼本線料金所位置図



▼見直し計画(現在)

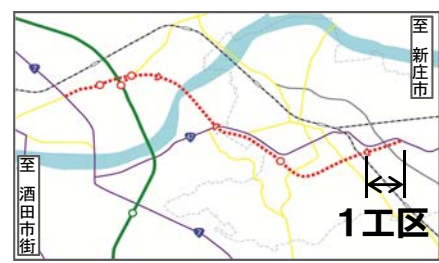


③計画見直し（コスト縮減）（-27億円）

■1工区の現道活用整備による変更

○別線整備から現道活用に変更

- 余目(1)IC整備
- 起点部 線形改良

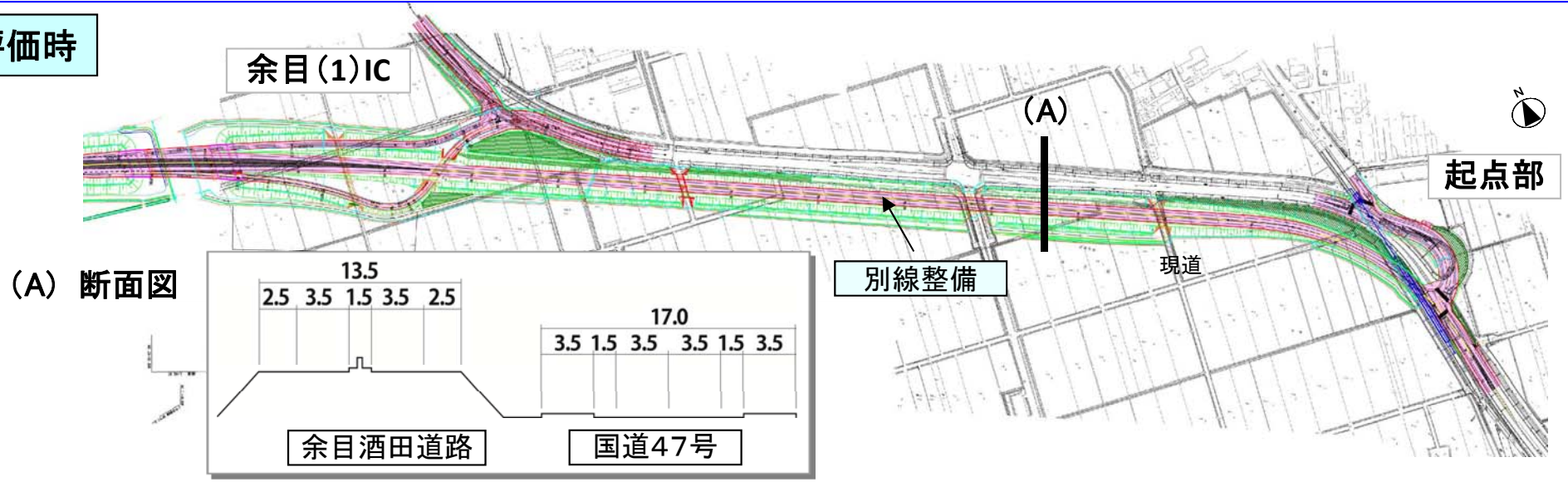


金額算定根拠

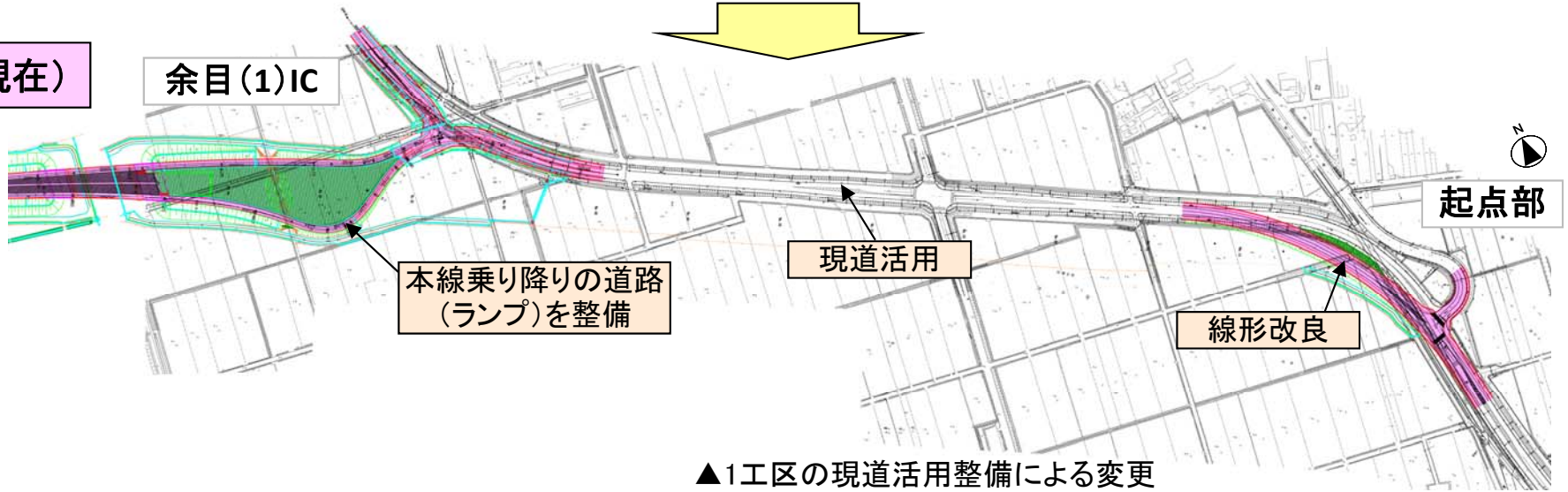
当初計画時整備費(単価上昇分を含む) C= 27.4億円

現道活用整備によるコスト縮減額 C=-27.4億円

H22再評価時



見直し計画(現在)



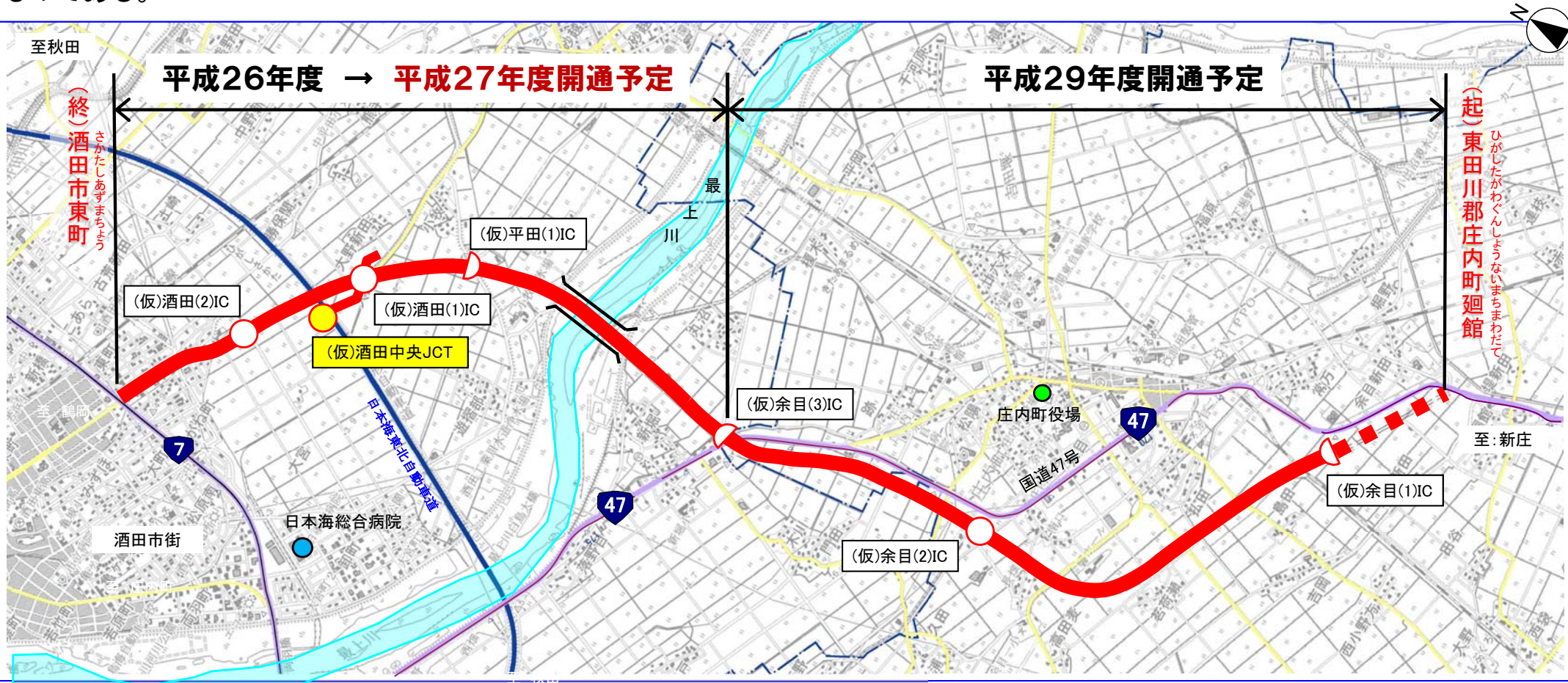
▲1工区の現道活用整備による変更

【余目酒田道路】 開通目標年度の変更

酒田中央JCT工事量増加による開通目標年度の変更(開通予定年度 平成26年度 → 平成27年度)

■開通年度変更に至る経緯

- 日本海東北自動車道と余目酒田道路の接続について、平成20年12月に都市計画変更、H21年6月に連結許可となる。
- 平成21年よりNEXCOと酒田中央JCT設置に係る協議に着手し調整を進めていたが、平成24年11月に事業区分等の詳細が決定し基本協定を締結した。
- その結果、工事量が増加したため平成26年度開通(予定)であったものが、工事工程上、開通の見通しが平成27年度となったものである。



3. 事業の必要性に関する視点（事業の投資効果）

●費用便益比（B/C） 全体B/C=1.1、残事業B/C=2.9

※下表の数値は、基準年（平成25年度）における現在価値換算した金額を記載

計画交通量（平成42年度） 余目酒田道路=21,200台/日 並行現道47号=3,200台/日
【全体】

	基本 ケース	感 度 分 析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+20%	-20%
費用C（現在価値）	696	696	696	715	676	691	702
事業費（億円）	631	631	631	650	611	631	632
維持管理費（億円）	65	65	65	65	65	60	70
便益B（現在価値）	776	853	700	776	776	708	850
走行時間短縮便益（億円）	636	698	572	636	636	581	697
走行経費減少便益（億円）	106	117	96	106	106	96	116
交通事故削減便益（億円）	34	38	31	34	34	31	38
費用便益比 B/C	1.1	1.2	1.0	1.1	1.1	1.0	1.2

【残事業】

	基本 ケース	感 度 分 析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+20%	-20%
費用C（現在価値）	266	266	266	286	246	261	273
事業費（億円）	201	201	201	221	181	201	202
維持管理費（億円）	65	65	65	65	65	60	70
便益B（現在価値）	776	853	700	776	776	708	850
走行時間短縮便益（億円）	636	698	572	636	636	581	697
走行経費減少便益（億円）	106	117	96	106	106	96	116
交通事故削減便益（億円）	34	38	31	34	34	31	38
費用便益比 B/C	2.9	3.2	2.6	2.7	3.2	2.7	3.1

平成22年8月に公表した「将来交通需要推計の改善について」にて検討することとしていた推計手法の改善（第二段階）を反映した将来OD表に基づきB/Cを算出

○純現在価値（ENPV） 【全体】80億円 【残事業】510億円

○経済的内部収益率（EIRR） 【全体】4.5% 【残事業】11.9%

●前回評価時（H22年度B/C総点検）の費用便益比（B/C）・計画交通量

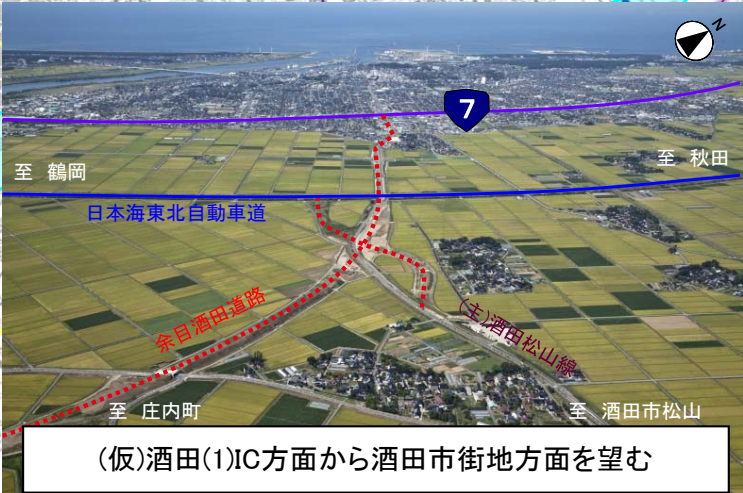
【前回評価時のB/C】 【全体】1.2 【残事業】2.4

【前回評価時の計画交通量】 余目酒田道路=20,600台/日

4. 事業の進捗の見込みの視点

○平成25年度は調査設計、用地補償、改良・橋梁工事を推進する

余目酒田道路工事状況



平成25年 8月現在

5. 事業の必要性に関する視点（事業の進捗状況）

○事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

- ・平成23年11月 酒田港が「リサイクル貨物」機能に係る「日本海側拠点港」として選定
- ・平成25年 5月 国道7号遊佐象潟道路、国道7号朝日温海道路が新規事業化

7. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

○盛土材（購入土）を発生土（他公共事業との調整）へ変更

8. 地方公共団体等の意見

○山形県知事の見解

一般国道47号余目酒田道路は、格子状骨格道路ネットワークを形成する重要な路線です。本路線は、東日本大震災からの復興に大きく貢献することが期待され、災害時の広域的代替機能の強化、及び、東北地方の発展を図るためにも重要で、必要不可欠であります。さらに、平成25年7月の集中豪雨では、冠水により16時間以上に渡り通行止めとなるなど、現道の脆弱性が改めて浮き彫りになったところです。

また、本県において、平成21年度に策定した「山形県道路中期計画」においても、“高速道路・地域高規格道路の整備促進”は、最優先する施策としております。

つきましては、当該事業を継続され、一日でも早い供用を目指して頂きたい。

○以下の団体等から、余目酒田道路の整備促進について要望あり

- ・庄内開発協議会（会長：鶴岡市長）、新庄酒田地域高規格道路建設促進期成同盟会（会長：新庄市長）、山形県商工会議所連合会、酒田商工会議所、山形県庄内地区道路協議会（会長：酒田市長）、山形県庄内地方町村議会議長会、酒田市議会、庄内町、山形県庄内地方国道愛護協会（会長：酒田市長）、庄内地方道路連絡協議会（会長：鶴岡市長） 他

9. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）最上地域と庄内地域の連携を強化を図るとともに、酒田市の国道7号の渋滞緩和、余目地区の交通安全確保など

14 早期整備の必要性が高い